19 日本国特許庁 (JP)

1D 特許出願公開

②公開特許公報 (A)

昭55--54926

識別記号

ゲ 庁内整理番号 → 6748—3B → 6354—3B

❸公開 昭和55年(1980)4月22日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 2 百)

ூタービンポリッシャー

②特

願 昭53-129096

❷出

額 昭53(1978)10月19日

⑩発 明 者 中澤敏一

門真市大字門真1006番地松下電器産業株式会社内

⑪出 願 人 松下電器産業株式会社 門真市大字門真1006番地

⑪代 理 人 弁理士 中尾敏男

外1名

1、発明の名称

ターピンポリッシャー

2、特許請求の範囲

電気掃除機等に接続する接続パイプと、吸引気流で回転するタービン車と、上記タービン車を内蔵し、一部に吸込ノズルを設けたタービン室と、上記タービン車の軸により駆動される回転磨き体とを殺け、上記吸込ノズルを前配回転磨き体を配設した空間に連通させたことを特徴とするタービンポリッシャー。

3、発明の詳細な説明

本発明は、電気掃除機等の吸引装置に接続して使用するタービンボリッシャーに関するもので、タービン車により変換された根域力により、回転磨き体を回転させ、更に回転磨き体により掃き飛ばされた庭埃類を電気掃除機等の吸引力で吸引することを目的としている。

従来のタービンポリッシャーは、吸引された空 気が通る通路が2つあり、一方はタービン車内を 通過する通路、他方は回転磨き体近辺に通じ、電 埃類を吸込む通路であり、この2つの通路の切替 え調整により、塵埃を吸込む必要があり、面倒で あるだけでなく、磨きながら塵埃を吸込ませよう とすると空気流が2つに分かれるため、タービン 車により変換される機械力が低下し、回転磨き体 の回転数が低下するという欠点を有していた。

70

Э.

を休11の回転方向は、それぞれ逆回転し、正面から見ると、内側に巻込むような回転方向にしてある(図面に回転方向は図示)。 この回転磨き体11を配設した空間13には前記した吸込メメルのが連通している。12はタービン車軸7を軸支する軸受であり、ビス等でタービン室4に固着されている。又、回転磨き体11には、ブラシ・フェルト等を設ければよい。

 特朗 昭55-54926(2)

れる。この場合、使用しているタービン車5は、 魔埃が通過しても使用できるダーティタービンを 使用しているため、家庭で発生する魔埃に対して は、何ら支障なく回転力を出すことができる。

このように本発明によれば、掃除機等を接続すれば、回転磨き体を配設した空間に吸込ノズルを連通させているから、簡単に床等の磨きやブラッシングによる汚れ落としをしながら、同時にそこで発生した塵埃を吸引することができるという効果をしているものであり、従来の問題を完全に払拭しているものである。

4、図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例におけるタービンポリッシャーの正面断面図、第2図は第1図のA-A線における側断面図、第3図は第2図のB-B/線における断面図である。

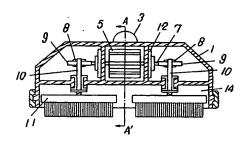
1 ······本体、3 ······接続パイプ、4 ····· ターピン室、5 ······ターピン車、6 ·····・吸込 ノズル、11 ······回転磨き体o

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名

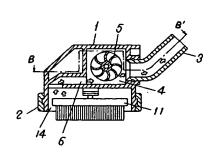
体 1 底面に設けられた吸込ノズル

第 1 図

7. 6.



新 2 配



焦 3 図

